



18
2861
9

北國全太平記卷之第九

目錄

越前諸坊王等滅亡

附 下間筑後法橋被誅事

豊原寺炎上 兵諸將恩賞事

加州一揆蜂起

附 柴田佐久間敵徒退治事

柴田重而加州退治事

前田又左衛門尉利家能州入国事

伊門
號
卷

伊門
號
卷

明治三十年
十月十八日
購

前田氏家系事

前田利家武功高名事

利家成前田氏嫡嗣

附 奥村助右衛門尉永福忠義事

佐々成政越中拜領

免遊佐伊丹石黒寺崎等死罪

同 利家被誅七尾妖僧事

北国全太平記卷之第九

洛下 後学 馬場玄隆信意輯録

越前諸坊主等滅亡 附 下間筑後法橋被誅事

去程二天正三年八月十七日。平信長公。越前ノ府

中。龍門寺ニ御着陣アリシカバ。一揆等ヲ搜シ討

ンガタメ。翌十八日。柴田修理進勝家。丹羽五郎左

衛門尉長秀。惟任日向守光秀。羽柴筑前守秀吉。稱

葉伊豫入道一徹以下三万余。中海道ヲ講取ツテ。

先ヅ鳥羽ノ要害ヲ攻破リ。其ヨリ直チニ進ンテ。

九頭龍。舟橋。森田。長崎。金津マデ押通ツテ。一揆共

ヲ討取ツタリ。龍川左近將監一益前田又左衛門尉

利家。佐々内藏助成政。武藤宗右衛門尉以下二万
余ハ。三保河内ヨリ。土橋邊マデ乱入ス。佐久間信
盛ガ嫡子。甚九郎。不破河内守。伊賀伊賀守。原田備
中守。篠岡兵庫助以下二万余ハ。西瀉越知。織田本
江。山家。絲崎。三里濱等ノ在々所々ニ手ヲ分ツテ。
押詰々々切リ捨ル。金森五郎八郎長近。原彦次郎
等ハ。徳山ヨリ。北口ニ乱入シ。砦三ヶ所攻破ツテ。
大野郡ニ著陣ス。三国吉崎ヲ固メケル。一揆共ハ。
加賀ノ国ヘ落テ行ク。其外ノ諸坊主土一揆共ハ。
或ハ山林。或ハ深谷。又ハ叢陰岩ノハサマナンド
ニ。逃カクレ居ル処ヲ。十万余ノ軍勢共。此ニ追詰

彼ニ馳廻ツテ搜シ出シ。切殺シ指殺シ。抑キ殺シ
踏殺ス。宗徒ノ坊主ニハ。和用ノ本覚寺。大塩ノ圓
光寺。大町ノ專授寺。橋立ノ真宗寺。西光寺。宇坂ノ
本向寺。藤嶋ノ超勝寺。荒川ノ興行寺。久末ノ照巖
寺。金崎ノ祐海真栗ノ瑞性。森田ノ由疑。湊ノ正薫。
渡邊ノ了珍。南居ノ正船等ヲ始メ。諸坊主一揆原
ヲ。或ハ誅シ。又ハ生捕リ。袖ヨリ袖ヘ繩ヲ通シ。珠
数ツナギニ引貫キ。三十人繩。五十人繩。十人繩ヲ
付テ。大将ノ陣ヘ引渡ス。凡テ去ヌル十五日ヨリ。
十九日マデ。五日カ間ニ討取ル処ノ諸坊主ノ首。
七百余級。一揆共ノ首一万余千五百余級都合一万余

二千二百五十余級ナリ。大将下間筑後、法橋八合
庄ヲ没落シ。山林ニ身ヲカクシ。難ナク害ヲ進レ
タリケルガ。其年ノ十月上旬。破レ笠ヲ着。ツバリ
タル衣ヲ身ニ纏ヒ。即等ノ富長ト云フ者ト共ニ。
乞食ノ躰ニモテナシ。府中ノ下野村ノ田ノ中ナ
ル。荒レタル小屋ニ伏居タリ。然ルニ此邊下野。黒
目野中。米納津村ノ土民共ハ古ヘヨリ専修寺派。
黒目村ノ称名寺ガ檀那共ナリケルユヘ。年比本
願寺門徒トハ。大ニ不和ニシテ。下揆ニモ與セザ
リケルガ。正シク下間カト覺シクテ。怪シキ法師
ノ居ルゾト云フ程コソアレ。下野。黒目。野中。米納

津ノ百姓等。蜂ノゴトクニ起リ立。忽ニ切殺ス。下
間ガ即等。富長。今ハ遁レヌ処ゾト思ヒ。河ヘ飛入
リ水ニ溺レテ死ニケリ。黒目ノ称名寺。祐惠大ニ
悦ビ。其比ハ柴田修理進。北庄ニアツテ。當国ノ守
護ナリシカバ。下間ガ首ヲ持セ遣ハセケリ。勝家
頼テ毛受勝介ヲ以テ。彼首ヲ。岐阜ヘ指遣ハシ。太
将ノ實檢ニ入レシカバ。信長感称アツテ。称名寺
ニ感狀ヲゾ下サレケル。

豊原寺炎上 兵諸将恩賞事

爰ニ柴田修理進。勝家。丹羽五郎左衛門。尉長秀。彌
業入道。一徹。羽柴筑前守秀吉以下ハ。越前ノ国

○續兵國 卷之九 四
ヲ真直ニ押通り。金津。細呂木。櫛ヨリ。大聖寺ヲ經テ。加賀ノ国ニ乱入シ。能登江沼等ノ南郡ヲ攻摩ケ。猶モ勢ヒニ乘ジ。奥郡マデモ押入テ。逆徒等ヲ攻從ヘ候ハント。大将ノ本陣ヘ使ヲ馳テ申ケレドモ。信長公是ヲ許シ玉ハス。勝テ誇ルコト大キハ。良將ノ法ナレバ。此度ハ指置ベシ。重子テ北國ヲ悉ク退治スベキゾト宣ヒケリ。去程ニ同キ二十三日。大将信長公。府中龍門寺ヨリ。一乗谷ヘ本陣ヲ移サルレバ。降人堀江中務丞景忠。小黒ノ西光寺等馳参ツテ。御礼ヲ申上ル。重子テ加州ヲ退治セラレバ。戸次右近ニ賜ハルベシトテ。津葉太

聖寺ニ。二ヶ所ノ城ヲ搦ヘ。戸次右近ヲ大将トシテ。嶋弥左衛門。佐々權右衛門。堀江中務丞。溝江大炊助ヲ籠置レ。諸勢ヲ越國ヘ引取リ至フ。此トキ敵少々附慕フト云ヘドモ。羽柴秀吉後殿シテ。敵兵多ク討取リ。安々ト引取リケリ。斯テ信長公ハ。豊原寺ヘ陣ヲ移サレ。同キ九月二日。此所ヲ御立アリケルガ。當寺ハ下間杉浦等カ宿陣セシ所ニテ。一揆ニ與セシ悪僧共ナリ。重子テ逆徒等カ足ダマリニセガルヤウニスベシトテ。数百ノ坊舎ヲ悉ク焼拂ハレ。其ヨリ北庄足羽山ニ。本陣ヲ居ラレ。爰ニテ諸將ニ恩賞ヲトリヨコナハル。中ニ三越

前ニテ五十万石ヲ柴田修理進勝家ニ賜ハリ越
 前ノ守護職ニ補セラル。大野郡三分二石ハ
 金森五郎八郎長近同三分一石ハ原彦次郎敦
 賀郡ハ元ノコトク。武藤宗右衛門尉ヲ代官ニ定
 メラル。府中邊ニテ五万石ハ。佐々内藏助成政。三
 万石ハ。前田又左衛門尉利家。二万石ハ。不破彦三
 加州江沼郡ハ阿閉淡路守貞秀。能登郡ハ。堀江中
 務丞景忠ニ恩賜アル。然レトモ加州ハ往古ヨリ
 一揆ノ進退セシ国ナル故受納スルコトハ叶ヒ
 ガタカラント。大將ヲ恨ミケレバ。信長公此コト
 ヲ傳ヘ聞玉ヒ。彼者ハ。朝倉累代ノ臣タリナガラ。

加州ニ落行キ。一向坊主ニ從ヒ。義景ニ敵對シ。今
 又吾ニ属スルコト。風ニ從フ柳ノゴトシ。向後ト
 テモ頼モシケナキ男ナレバ。密カニ誅スベシト
 思召。其後柴田ニ仰付ラレシカハ。勝家謀ヲ以テ。
 景忠ヲ瀧谷寺へ招キ出シ。終ニ誅シケルトゾ聞
 へシ。斯テ佐々。前田。不破。三人ヲ。三奉行ト号シ。府
 中ニ指置シ。柴田ヲ。北庄ニ留置シ。北陸道ノ總藏
 トシテ。諸士勝家が下知ニ從フベシト定メラル。
 爰ニ又專修寺。孤ノ称名寺。常樂寺。勝鬘寺。本流院。
 仙福寺。讚門徒ニハ。鯖江。誠照寺。同ク清水頭ノ毫
 撰寺。同ク横越ノ證誠寺。同ク中野ノ專照寺ナト

ハ。一宗ノ本末ヲ爭ヒ。本願寺派ノ坊主トハ。互ニ不快ナリケルユヘ。大ニ悦ビ。皆々御礼ニ出ケレハ。信長公神效ナリト感^カシ^シ至^シフ。其後丹後若狹ノ輩ニ御暇ヲ賜ハツテ。同キ二十三日。北庄ヲ御立アツテ。府中ニ著陣ナサレ。翌二十四日。椿坂ニ御泊リ。二十五日ニハ。乘井ニ御着アツテ。翌自岐阜ニ飯城シ至ヒケリ。

加州、一揆蜂起。附柴田佐久間敵徒退治事。斯テ戸次有^カ近^カ始^カ。柴田无^カ衛門。ハ。加賀ノ国ノ一揆共ノ押ヘトシテ。大聖寺ニ在城シケル処ニ。例ノゴトク。一向宗門ノ卿民等。及ヒ前^カ己^カ富^カ禪^カ人^カガ^カ家

入^カ共^カ一^カ揆^カヲ^カ企^カテ^カ蜂^カ起^カシ^カテ。天正四年。同国不^カ忍^カ橋ニ出張ス。戸次是^カヲ^カ聞^カ敵^カニ^カ足^カヲ^カ夕^カメ^カサ^カセ^カテ^カハ^カ悪カリナント。大聖寺ヲ討テ出敷地山ニ打テ出挑ミ戦フ処ニ。一揆等俄ニ裏崩レレテ。富樫六郎左衛門。舟田又吉。小里黑源太。林新六郎以下。悉ク敗軍ニ及ビケルヲ。追カケク討取テ。大聖寺ヘゾ引取リケル。一揆等是^カヲ^カ無^カ念^カニ^カ思^カヒ。猶モ奥郡ノ卿民共ヲ相催シ、カハ。村々里々蜂起シテ。小松。御幸塚ニ要害ヲ構ヘ。楯籠ル。戸次モ亦敷地ノ天神山ニ砦ヲ築キ。日々夜々ニ相戦フ。戸次毎度勝ニ乘ルト云ヘトモ。一揆ハ国中ニ滿タル多勢ナレ

ハ。始終叶ヒカタシト思案シテ。江州安土へ飛脚
ヲ馳援共ヲ賜ハルベシト注進ス。是ニヨツテ佐
久間玄番允盛政ニ。加州ヲ伐リ取り進退スベシ。
叔父修理進勝家。越前ヨリ加勢スベシトテ。加州
へゾ指遣ハサレケル。柴田修理進。佐久間玄番允
大ニ悦ビ。加州ニ發向シテ。一揆等ガ乗取ツタル。
天神山ニ押寄テ。忽ニ攻破ル。一揆等又不忍橋ニ
楯籠ル。柴田。佐久間スカサズ攻寄乗破レバ。一揆
等大ニ敗亡シテ。御幸塚へ引取りケリ。斯テ合戦
難儀ナランニハ。何時ナリトモ加勢スベシト相
約シテ。柴田ハ。北庄ニ飯陣セリ。佐久間ハ其ヨリ。

御幸塚ニ押寄テ。攻動カスコト雷震ノゴトシ。徳
山五兵衛尉計略ヲ巡ラシ。城中ニアリシ。内山四
郎左衛門林七助兩人ヲ。味方ニイガナヒケレバ。
城ヲ攻ラレ候へ。裏切り仕り候ハント密ニ相圖
ヲ云ヒ遣ハス。盛政悦ビ士卒ヲ下知シテ。虎口ニ
詰寄攻立ル。阿閉錠之助。上坂又兵衛。加嶋平三等
力戦シテ高名ス。時ニ林内山等裏切りシテ攻立
レバ。一揆等大ニ狼狽シテ。御幸塚ヲ乗破ラレ。右
往充往ニ落行シカ。猶モ殘黨等相集ツテ。松任尾
山ノ兩城ニ楯籠リ。敗軍ノ耻辱ヲ雪ントゾ議シ
タリケル。是ニヨツテ一揆等。村々ニ跨リ里々ニ

蜂起セシカバ。翌年ノ八月。柴田修理進ヲ大将ニ
 テ。齊藤新五郎。椎任五郎。左衛門尉長秀。丹羽龍川
 左近將監。益稻葉入道。一徹羽柴筑前守秀吉。佐
 々内藏助成政。前田又左衛門尉利家。金森五郎八
 郎長近。不破河内守。原彦次郎。氏家左京亮。安藤平
 左衛門尉等ヲ指向ラル。此勢加州ニ乱入シ。犀川
 手取川ヲモ押渡ツテ。阿多賀小松本折ヲ始メ。在
 々所々ノ民屋ヲ焼拂ヒ。此所ニ在陣シテ。合戦ノ
 止トキナカリケルガ。一揆等終ニ戦ヒ。負退散ニ
 及ビシカバ。切所々々ニ押ヘノ勢ヲ残シ。置柴田
 以下ノ諸將。悉ク引取リケリ。

柴田重而加州退治事

然ル処ニ。加州ノ一向坊主。土一揆等。猶モ余黨等
 ヲ相催シ。蜂起スル由聞ヘシカバ。信長公急キ。逆
 徒ヲ退治シテ。根ヲ断葉ヲ枯スベキ旨。柴田修理
 進ニ下知シ玉フ。是ニヨツテ修理進。勝家ハ。天正
 八年閏三月九日。居城北庄ヲ打立テ。加賀ノ国ニ
 乱入シ。淡川手取川ヲ渡シテ。官腰ニ陣ヲ取リ。在
 々所々ノ民屋ヲ焼拂ヒ。布市ノ城ニ押寄。只一息
 ニ捫落シ。其ヨリ段々ニ所々ヲ放火シテ。直チニ
 奥郡ニ衝キ入り。越中ノ道筋安養寺。越ノ邊マデ
 乱レ入り。能登塚ノ谷々マデ火ヲ放チ。其ヨリ光

徳寺ノ大坊主カ楯籠ツタル。木越ノ寺内ニ押寄。
短兵急ニ乗破レバ。大坊主ヲ始メ一椽原。一支モ
支ヘス。心々ニ落行ヲ。追カケ追詰突伏セ切伏也
討取リケリ。勝家氣ニ乗テ。未森ノ城出肥ノ要害
ニ押寄テ。又一椽原ヲ其數多ク討取リケリ。然ニ
能州ノ長氏ハ。畠山家入臣ノ其一ツナリケルニ
同ハ臣ノ内温井備中守景隆舍弟三宅備後守長
盛以下逆意ヲ企テ。国中ノ動乱止トキナカリケ
ルカ。去ヌル天正五年。長對馬守連繼其子九郎左
衛門尉重連ヲ討滅ホシ。因郡ヲ押領ス。時ニ連繼
カ子ヲ。幸恩寺ニ送りテ。出家セサテ置ケルガ。父

兄ノ繼ヲ報セン。夏ヲ思ヒ。還俗シテ。長九郎左衛
門尉連龍ト号シ。信長公ニ請テ。今年越中ノ森山
ヨリ。能登ノ福水ニ打テ出。八伏山。菱脇。佛性寺。小
竹。東番場ノ數城ヲ隔レ。武威ヲ国中ニ振ヒケル
ガ。此トキ勝家ニカヲ合ンガクメ。飯山ノ陣ニ手
ヲ合セ。所々へ相働キシカバ。柴田勢勇ニ進ムコ
ト夥シク云レバ。安宅。小松。松任。檜屋。那谷。笹谷。倉
橋。鞆。个嶽。劍。身。越。龜山。小原以下。數个所ノ要害ヲ
攻落シテ。今ハ石川郡尾山一城ニナリニケリ。係
リケル処ニ。佐久間玄蕃。允盛政。謀略ヲ巡ラシ。尾
山ノ城ヲ攻取テ。敵將若林雅樂助。同甚八松永丹

波。鈴木右京其子次郎右衛門。同采女。同出羽。同太
即。鍋木右衛門。岸田入道常徳齋。一子藤六。坪坂新
五。黒瀬元近。窪田大炊。三林善四。即荒川市助。得田
小次郎以下ノ敵徒悉ク討取テ。加州平均ニ及ビ
ケレバ。柴田。佐久間大ニ悦ビ。毛受勝助吉親ヲ。江
州安土ニ進上シ。合戦ノヤウヲ注進シ。宗徒ノ首
十九献上ス。此旨青山與三御前ニ披露シケレバ。
信長公感悦斜ナラス。使者毛受ヲ御前ニ召シ。桐
引兩ノ御紋ノ羽織ヲゾ下サレケル。叔加州ハ佐
久間ニ宛行フベキカ。其段ハ勝家カ心ニ任スベ
シト。直ニ仰渡サレ。毛受ニ御服ヲ賜ハツテ。彼逆

徒等カ首ヲ。安土ノ松原ニゾ梟サレケル。

前田又左衛門尉利家。越州入国事

去程ニ柴田修理進勝家ハ。加州ヲ難ナク攻徒へ。
加州尾山ノ城ニ。佐久間玄番。元盛政。同国御幸塚
ニ。徳山五兵衛尉。同大聖寺ニ。拜郷五左衛門尉。越
前丸岡ニ。柴田伊賀守勝豊。同勝山ニ。柴田三左衛
門勝成。東郷ニ。安井左近家。清ヲゾ居置ケル。茲ニ
温井備中守景隆。三宅備後守長盛ハ。長九郎左衛
門尉連龍ニ戦ヒ負今ニテノ罪科ヲ御免ナサレ
下サレバ。越州半目ヲ指上申御味方仕リ。忠戦ヲ
励ム候ハント佐シカバ。信長公其罪ヲ免シ玉ヒ。

前田又左衛門尉利家ニ。能州ノ国政ヲ執行ハス
ベシトテ。菅屋九右衛門尉長頼福富平左衛門尉
行情兩人ヲ相添能州へ差遣ハサル。神保安藝守
長治ハ。畠山家ハ臣ノ其一ナリケルガ。近年織
田家ニ降り信長公ノ妹婿ニナリテ。罷寓茂カラ
ガリケルガ。此度神保カ本國越中ノ逆徒ヲモ攻
從ヘラルベシトテ。長治ガ縁者タルヲ以テ。佐々
内藏助成政ヲ。越中ニ指遣ハサル。是偏ニ二個國
ノ敵徒退治ノ後ハ。直子ニ越後ノ大守上杉景勝
謙信ノヲ攻滅ホサレントノ計略ナリ。其ヨリ前
田利家ハ。能州飯山ノ城ニ居シ。菅屋九右衛門尉

前田氏家系事

ハ。七尾ノ城ニ居シ。福富平左衛門尉ハ。富木ニ居
テ。國中ノ政事ヲゾ執行ヒケル。
柳前田氏ノ世系ヲ委ク尋ヌレバ。菅原氏ニシテ。
菅相丞ノ後胤ナリ。素ヨリ菅相丞賢才ノ譽レ天
下ニ顯ハレシカバ。本院左大臣藤原時平公大ニ
是ヲ妬ミ。種々讒ヲ稱ヘラル。醍醐天皇是ヲ實ト
シ。罪ナキニ菅相丞ヲ。筑紫ノ太宰府ニ配流シ王
フ。其後配所ニテ二人ノ君達ヲ儲ケサセ至フ。兄
君ハ前田ヲ以テ稱号トシ。弟君ハ原田ヲ以テ稱
シ。其後數代ヲ經テ。前田氏ハ。筑紫ヨリ。尾張

葉ニ。前田主膳亮ト云フ人アリ。其子ヲ縫殿助利
春ト号ス。尤無双ノ豪士ナリ。其嫡男ヲ藏人利久
ト号ス。前田慶次郎利大ハ。大剛ノ名ヲ顯ハシ。後
入道シテ。ヒヨツト齊ト号シ。諸國ヲ武者修行シ
テ。後年上杉家ニ仕ヘ。自キ緋ノ四半ニ。墨ニテ大
ブヘン者ト。假名ニテ大文字ニ書タル。指物ヲ指
テ相働ク。武功ノ諸士等是ヲ見テ。押出シテ武邊
者ト云フ指物ヲ指コソ安カラ子。人モナゲナル
奉動。是ヲ見捨ニハナリガタシト。皆々心ヲ合セ。
慶次ガ指物ヲ。切り落サント。轉キケルニ。慶次郎

打笑ヒ。其ハ旁ノ心ノ廻リタル誤リゾヤ。大武邊
者トハ。清獨ノ違ヒナリ。永々牽浪ノ身トナリシ
ユヘ。大不使者ト云フ。復ゾト答ヘケリ。去レハ。教
度ノ高名ヲ究メ。天下ニ勇名ヲ顯ハセル。慶次郎
利大ハ。藏人利久ノ嫡子ナリ。縫殿助利春ノ二男
ヲ。五郎兵衛尉安勝ト云フ。後能州七尾ノ城主タ
リ。三男ハ。三左衛門尉利玄。四男孫左衛門尉良繼
五男ハ。右近亮秀繼ト号シ。加州津幡ノ城ニ任シ。
後越中ノ国貴布祢ノ城ニ移リ任ス。秀繼ノ子ハ。
前月又次郎トテ。後越中今石動ニテ。四方石ノ采
地ヲ領シ。隠レナキ大カノ勇士ナリ。又左衛門尉利

家ハ此秀繼ノ舍弟ニテ。利春ノ六男ナリ。後ニハ
 從二位大納言マテ昇進シ玉フ。七男ハ佐脇ノ家
 ヲ繼テ。佐脇藤八郎良之ト号ス。其次ハ女子ニテ。
 高畠石見守定吉ガ妻女ナリ。去レハ利家ハ幼少
 ヲリ。織田信長公ニ仕ヘ山野ヲ馳テ身命ヲ拖テ。
 死ニ夜半ニ忠勤ヲ励ミ。智謀倫ヲ離レ。武勇類ヲ
 絶ツ。遂ニ加賀能登越中三ヶ国ノ大守ト仰ガレ。
 大閤秀吉公ニ遇セラレテ。股肱輔翼ノ重臣ニテ。
 五老臣ノ其一員ナリ。慶長四年閏二月三月六十
 ニ歳ニテ逝去シ玉フ。贈從一位高德院殿ト追号
 シ奉ラセケリ。此亞相利家卿ニ。男女ノ子數多出

来リ玉フ。第一ハ女子ニテ。前田對馬守長種ノ室
 家ナリ。二女ハ庄ノ御方トテ。中川武藏守光重ノ
 内室ナリ。其次ハ。日柴筑前守利長ト号ス。母ハ芳
 春院殿土方河内守雄久ノ伯母是ナリ。利長後ニ
 ハ中納言從二位ニ昇進シ玉フ。贈正二位亞相瑞
 龍院殿ト号シ奉ラセレハ。此卿ノ御コト也。其次
 ハ孫四郎利政利長ト同母ニテ。後從四位下ニ叙
 シ侍從ニ任ズ。次ハ磨阿ノ御方ト号シテ。萬里小
 路中納言光房卿ノ室家ナリ。其次ハ京ノ御方ト
 申テ。備前中納言秀家ノ室家ナリ。次ハ長ノ御方
 ト号ス。是網川與上忠隆ノ室ナリシガ。故アツテ

後村井出雲守ニ嫁セシメララル。次ハ世目ノ御方
ト申テ。浅野紀伊守幸長ノ室家ナリ。其次ハ修理
進利好。其次ハ女子ニテ。福ノ御方ト号シ。長十左衛門
尉好連九郎左衛門尉ノ内室ナリシガ。好連死後
ニ。中川大隅守室トナレリ。其次暮知ノ御方ハ。篠
原玉膳ユキタケ妻女ナリ。其次ハ筑前守利光。後利常ト改
メ玉フ。其次ハ大和守利孝。慈雲院ト号ス。次ハ備
前守利豊。元和六年八月三日ニ卒ス。江月院ト号
ス。其末二人ハ女子ナリシガ。幼少ニテ二人共ニ
世ヲ早フシ玉ヒケリ。利常卿ノ舍兄。黃門利長卿
ニ。嗣子ナカリシユヘ。利常家督ヲ相續シ玉ヒ。中

納言從三位ニ昇進シ玉フ。万治元年十月十二日
ニ逝去シ玉ヒ。微妙院殿下峯ホウコウケン克乾太居士ト号シ
衆ラスル。去レバ利家卿ノ子孫月ヲ逐テ。次第ニ
繁栄ヲ極メ玉ヒケリ

前田利家武功高名事

斯ノゴトク。利家威名ヲ四海ニ耀シ玉フ。其末由
ヲ尋ヌルニ。此郷ハ天文七年戊戌。尾州荒子ニテ
誕生シ玉ヒ。前田犬千代ト号セラル。其生質容貌
参麗ニシテ。頗悟ヒシゴ獻智常ナラス。凡人トハ見ヘガ
リケリ。幼少ヨリ信長公ニ近仕シテ。其寵愛甚シ
ク。同キ二十年辛亥初メテ。鎧ヲ著セラル。同年ノ

八月十六日。信長公。織田五郎ト。海津ニテ合戦
アリシトキ。犬千代勇ヲ勵マシ。先登ニ進ンテ敵
兵ノ首ヲ獲ラル。信長大ニ感シ。汝今日初陣トシ
テ。斯ノゴトク高名ヲ極ルコト。謂ツベシ。膽ニ毛
ヲ生ズルト。甚夕養談シ玉ヒケリ。其後弘治二年
八月二十四日。織田信行逆心ノトキ。稻生ニテ合
戦アリシニ。信行ノ小姓頭官井勘兵衛ト云フ大
剛ノ者。利家ヲ目カケ。塗籠藤ノ弓ニ矢ヲハケ。ヨ
ツ引テ兵ト奔ツ。其矢アヤマタス。利家ノ右ノ目
ノ下ニスハト立ツ。去レドモ利家。大剛ノ勇士ナ
レバ。層撓マズ。目逃カス。剛氣勃生シ。大ニ奮ヒ怒

ツテ。忽官井ヲ討取リ。其矢ヲ拔スレテ。首ヲ抛ケ
大將ノ前ニ来リ。實檢ニ入レラレケレバ。信長其
武勇ヲ感赫シ玉ヒケリ。去レバ信長公其後安土
ニ御在城ノトキ。利家ヲ始メ。柴田修理進勝家。丹
羽五郎左衛門尉長秀。龍川左近將監一益等ノ諸
臣ヲ召レ。自ラ配膳ヲナサレ。御肴ヲ手ゾカラ玉
ハリ。旁数年ノ功勞ナクンバ。吾何ゾ天下ノ擾乱
ヲ鎮メンヤト仰ラレ。利家ノ大鬚ヲ撫玉ヒ。此鬚
ハ少年ノトキ。稻生ニテ敵ノ魁首官井ガ首ヲ得
タリ。是右ノ鎌倉權五郎景政ニモ劣ルマレキ勇
士ナリト。大ニ感シ玉ヒケリ。又永祿二年。信長罷

過ノ同朋二十阿弥ト云フ法師。利家ノ筆ヲ盜ミ
ケレバ。利家大ニ憤リ。討テ捨ント怒ラレケルヲ
信長十阿弥ヲ憐ミ。大ニ制シ宥メラレケレバ。利
家王是非ナク怒ヲ抑ヘテ命ニ應ス。十阿弥罷ニ
誇リ。利家ヲ却ツテ散々ニ悪口シ。腹ヲ抱ヘ手ヲ
拍テ。大ニ笑ヒ嘲哂ニケリ。利家は傳ヘ聞大ニ
憤リ。難ナク櫓ノ下ニテ。十阿弥ヲ切り殺サル。信
長ハ櫓ノ上ニテ。遊宴シテ居玉ヒケルガ。大ニ氣
色ヲ変シ。吾命ヲ叛クコト。其罪輕カラストテ。所
領ヲ召上。誓居仰付ラレケリ。翌年五月。今川義元
ト。尾州桶狭間ニ合戦ノトキ。敵共ノ首ヲ討高名

ヲ頭ハサレシカ共。信長勸氣ヲ許シ玉ハサレバ
利家猶モ勇ヲ勵マシ。同キ四年五月西養濃ニテ
齊藤方ト合戦ノトキ。又先登ニ進ンデ。敵ノ首二
ツヲ獲ラレシカバ。信長大ニ其功ヲ感養シ玉ヒ
是ヨリ再ビ信長公ノ。左右ニ昵近シ玉ヒケリ。

利家成前田氏嫡嗣。附奥村助右衛門尉忠義事
其後永祿七年八月。信長公。齊藤龍興ガ本城。稻葉
山ヲ圍ミ玉フ。此トキ利家。森三左衛門尉可成ト
共ニ。先陣ニ進ミ。鎧ヲ合セテ敵兵ノ首ヲ得夕リ。
同キ十年信長公武功ノ勇士ヲ撰ミ。黒纒赤纒ノ
士十九人ヲ定メラル。各鬪ヲ取テ黒赤ヲ分タル。

赤纒ノ衆ニハ。前田利家。飯尾隱岐守信宗。織田越前守。黒田次右衛門尉。原田備中守毛利河内守。福富平左衛門尉。猪子内近野々村三十郎ナリ。黒纒ノ衆ニハ。佐々内藏助成政。蜂屋兵庫頭頼隆。河尻肥後守。毛利新左衛門尉。中嶋主水。松岡九郎次郎。生駒勝助。村田左馬助。水野帶刀左衛門尉。中川八郎兵衛尉ナリ。利家此トキ三十歳。年若ナルヲ以テ辭退セラル。信長聞召其古ヨリ纒ヲカクルヲ以テ勇士ノ本意トス。汝年若シト云ヘトモ最武切ニ老タリ。敢テ辞スルコトナカレト宣ヒシカバ。諸人羨ヌハナカリケリ。然ルニ利家ノ舎兄前

田藏人利久ハ。父縫殿助利春ノ遺跡ヲ續テ。尾州荒子ヲ領セラレケルガ。尤武勇ハアリト云ヘトモ。一方ノ大将トモナルベキ者ニアラストテ。同キ十一年。信長公ノ命ニヨツテ。藏人利久ノ所領ヲ舎弟利家ニ玉ハリ。前田氏ノ嫡家ニゾナサレケル。此トキ柴田修理進勝家。森三左衛門尉可成。佐々内藏助成政等。利家ノ許ニ来リ。此コトノ賀儀ヲ演テ後。利久教度ノ武功ヲ究メラル。ト云ヘドモ。貴邊ノ武勇ニハ及ヒカタシ。貴邊ノ戦功ハ離倫絶類古今ニ例シ少ナカラシ。去ニヨツテ係ル幸ヲ得玉ヘリト。其詞モ云ヒ終ラサルニ。利

家居長高ニナリ。眼ニ角ヲ立アラハカナル色ヲ
シテ。兄利久ガ不才ハ世人ノ能知ル処ナリ。去ニ
ヨツテ。身不肖ナレドモ。利家嫡嗣トナルベキ旨
仰ヲ承ル。是吾本望ニアラス。旁何ゾ利久ヲ誅リ
某ヲ廢至フヤ。是佞奸阿順ノ行跡。吾何ゾ悅シヤ
ト怒ラレシカバ。三人ノ輩面ヲ赤メ。誤リヲ謝シ
テ。飯リケル。其ヨリ利家荒子ノ館ニ移ラント
シ至フ処ニ。利久ハ久シク清須ニ在番シ。家臣與
村助右衛門尉永福留主居トシテアリケルガ。コ
ハ心得ヌ。復共カナ。今何ノ罪アツテカ。嫡子ヲ退
ケ。庶子ヲ立玉フベキ。此館ハ得コソ去リ渡スマ

シケレトテ。士一卒ヲ出シテ防ガセケレバ。利家使
ヲ以テ。信長ノ朱印ヲ遣ハシ。君令ナリ。早ク館ヲ
去リ渡スベシト宣ヘトモ。與村猶モ怒リヲ止ス
我何ゾ是ヲ用ンヤ。利久ノ書ヲ見ズンバ。爰ヲ去
ンコト固ク叶ヒ候マジト云フ。利家は是非ナク使
ヲ清須ニ馳藏人ノ書ヲ請得テ。與村ガ方ニ遺ハ
サレケレバ。永福ツクぐト是ヲ見テ。利久ノ筆ニ
紛レアラサルユヘ。叔ハ疑フ処ナシトテ。館ヲ閑
渡シケレバ。諸人皆其忠勇ノ程ヲ感ゼケル。是
ヨリ利家荒子ノ館ニ移リ。與村ヲ疏ミ。惡マレケ
レバ。助右衛門尉ハ。其ヨリ窄浪ノ身トナリケル

カ。其後越前金崎ノ合戦ニ。奥村武勇ヲ振ヒ勝レ
タル高名ス。利家其戦功ヲ感じ。其ヨリ家臣ニゾ
セラレケル。其外江州ノ姉川。樺州ノ野田福嶋。尾
州長嶋。一揆。三州長篠。越前ノ一揆退治。所々ノ合
戦其勲功勝テ計ヘガタシ。尤希代ノ良将ナリ

佐々成政越中拜領。并遊佐伊丹石黒以下死罪事
天正九年二月。右大臣平信長公。帝都ニ於テ馬揃
アルベシトテ。諸国ノ大名ヲ召レシカバ。越中ノ
神保安藝守。佐々内藏。助成政。越前ノ柴田修理進
勝家。同伊賀守勝豊。同三左衛門尉勝成。不破亥三。
金森五郎八郎長近。原亥次郎。能州ノ前田又左衛

門尉利家以下。上洛セシ処ニ。此折ヲ得テ。越後ノ
上杉景勝ノ臣。河田豊前守。越中松倉ノ城ヨリ切
テ出。国中ヲ伐リ取ント。小井手ノ城ヲ攻動カス
加州ノ一向宗門一揆ノ残黨等モ。上杉家ニ牒ジ
合セ。柴田ガ即等。毛利九郎兵衛ガ府峙ノ要害ヲ
攻落ス。佐久間玄蕃允コノ由ヲ聞。尾山ノ城ヨリ
馳著テ。即時ニ府峙ヲ取返シ。此旨安土ニ洋進ス。
是ニヨツテ柴田前田。佐々以下。大将ノ御暇ヲ賜
ハツテ。昼夜ヲ分タズ馳下ル。河田ハ佐々後詰ノ
夕メ。飯田スト聞テ。小井手ノ城ノ岡ヲトキ。松倉
ヘ引スレケレバ。成政モ力ナク。居城守山ニ打入

ル。信長公。佐々が早速ノ成功ヲ感ジ思召レ越中
ノ守護職ヲ成政ニゴ賜ハリケル。茲ニ畠山義則
ノ舊臣温井備中守景隆舍弟三宅備後守長盛遊
佐養作守等ハ長九郎左衛門尉連龍ト。挑戦救度
ニ及ブト云ヘドモ。叶ヒガタシト思ヒケレバ去
年連龍ト和睦シ。信長公ニ降参ス。然レドモ渠等
本意ヲ達センコトヲ欲シ。密ニ上杉景勝ニ志シ
ヲ通ジ。能州ヲ乱サントスル由聞ヘシカバ。菅屋
九右衛門尉長頼ニ仰付ラレ。同キ六月二十七日
能州七尾ノ城中ニテ。遊佐養作守。舍弟伊丹孫三
郎等ニ。長臣三人切腹ヲゴセサセラレケル。是ヲ

ヲ聞テ。温井。三宅兄弟。身ノ上トヤ思ヒケン。行衛
モ知ラス。逐電ス。同キ七月六月。越中貴布祿ノ城
主。石黒左近亮。家老同。與右衛門。伊藤次右衛門。水
卷采女以下。一族三十二人。召ニヨツテ上国ス。此
者共モ。上杉ニ一味レ。逆臣ノ聞ヘアルニヨツテ。
秘計ヲ巡ラレ。佐和山ノ城ニ於テ。切腹ヲセサス
ベキ由。城主惟任五郎左衛門尉長秀。丹羽兼テ仰
ヲ承リ。其用意ヲセラレシ処ニ。石黒左近亮。長濱
マテ上リケルガ。其様ヲ推察シ。様々難渋シテ。佐
和山へ来ラザレバ。長秀士卒等ヲ。長濱ニ指遣ハ
サル。此者共。石黒ガ民家ニ宿シ居タリケルヲ。急

ニ押寄取冊ンテ。左近亮ヲ始メ。十五人討取リケ
 リ。又同国ノ任人寺崎民部左衛門尉同喜六父子
 モ先月ヨリ。佐和山へ召寄ラレ。惟任ニ預ク置シ
 ケルガ。是モ同キ十七日。長秀承ツテ切腹ニゾ及
 ビケル。斯テ能州平治シケレバ。菅屋九右衛門尉
 長頼福富平左衛門尉行清能州ヨリ上国ス。是ヨ
 リ前田又左衛門尉利家能州七尾ニ移リ任シ。国
 政ヲ執行ハレケルガ。放鷹シテ所々ニ至リ。民ノ
 貧苦ヲ問ヒ。徳ヲ以テ撫育セラレシカバ。國中大
 ニ祝服シ。其徳ニナツキ従ヒケリ。其比或人利家
 ニ告ケルハ。頃年不思議ノ異人候ガ。此七尾ニ来

リ任シ候ガ。能天地ヲ禱祠シ。人ノ諸願ヲ叶ヘ候。
 其言フ所巧ニシテ。妻子モナク。其生所モ知ラス。
 其年モ知ル人ナシ。常ニ自ラ戯レテ。百歳ト申候。
 國中ノ諸人は是ヲ信仰シ。種々ノ者ヲ送り候ユヘ
 只今ハ金銀衣食ニ飽滿候ト云フ。利家聞玉ヒ。早
 ク其者ニ逢フベシトテ。彼者ヲ召出サレ。已ハ是
 妖怪因賊ナリトテ。死罪ニゾ行レケル。是真實ノ
 道者ニアラス。能々僉議シ玉フニ。利家ノ兼テ察
 シ玉ヒシニ違ハス。果シテ耶蘇宗門ノ徒ナリケ
 リ。去レバ前田又左衛門利家。仁ヲ以テ諸士ヲナツ
 ケ。徳ヲ以テ民ヲ憐レマレケレバ。國中ノ諸士民

百姓ニ至ルマテ。大ニ賑服セルトソ聞ヘシ。

北国全太平記卷之九終

織田信長公
羽柴執前序

平家原

利以子公執前序

